

「手仕事」を 通して思うこと



岡崎市教育委員会

委員長 仲井 さち 氏

教育随想

月報 岡崎の教育



平成15年9月1日

9月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
岡崎市教育委員会 委員長 仲井 さち氏	
この人に聞く	2
岡崎市相撲教室指導25年 岡田 悟氏	
羅針盤	2
特殊教育指導員 澤田 祥明	
ふれあい	3
竜海中 尾崎 和美	
特集	4
東海地震に備える —進む防災教育—	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
敬老会(昭和7年)	
この本を	8

「胡瓜の薄切り」「厚焼き卵」「はた結び」「まつり縫い」「着物をたたむ」など、年度や講座によって異なりますが、短大生に実技テストを課すようにしています。

手仕事は、利き手の動きを補助する副の手の動きが大切であり、右手と左手の調和のとれた動きができ上がりやを左右します。また、物を摘んだり握ったりできるのは親指が他の指と向かい合う「拇指対向性」によりますが、親指の位置が悪く指先をしっかりと対向させることができず、箸や糸を上手に操れない場面が多くみられます。

手仕事の技術は習得の機会が少なくなってきたために、手の動きはおぼつかなくなっておりますが、少し

の練習で上達していくのを見ていると、生活に即した教育や訓練が乏しいことを残念に思います。

幸田文の著作『父・こんなこと』の中に「あとみよそわか」という章があります。家事一般を十四歳の娘の文に教え込む露伴の理を尽くした伝授が鮮やかにしたためられています。道具の扱い・手順・動作・姿の美しさを説き、「あとみよそわか」と呪文を唱えて必ず見直して終わりにすることを教える、親としての渾身の意気込みに胸を打たれます。

礼儀や立ち居振る舞いなども含めて、大人から教え込まれるという機会のないままに成長していく子供たちがいます。街や車中で見かける子供の姿の中に、慈しみをもって教え

られてこなかった悲しみを見る思いがいたします。

同時に、素晴らしいものを身に付けることができたであろう子供たちを育てることをしてこなかったことに、大人として、また教育にかかわる仕事をしてきた者として、大きな責任を感じています。

(なかい さち)



この人に聞く

ふるさとシリーズ



心技体を磨く

岡崎市相撲教室指導 二十五年

岡田 悟 氏

「昔の子は、遊ぶ道具もなかったから、道具も何もいらぬ相撲をよくしたものです。」

次々に子供たちが土俵に入り、黙々と「四股」や「すり足」の基本練習をしている。二十五年間子供たちの指導にあたっておられる岡田さんに、相撲教室「青風館」という道場で、お話を伺った。

「小学一年生のときに、叔父から相撲を教えられました。そこから二十九歳の現役まで、何度か団体で、岡崎の代表として、県大会や全国大

会に出場しました。四十歳のころ、いろいろな方から岡崎で相撲教室を開いてくれないかと頼まれ、今から二十五年前に子供たちの相撲の指導を始めました。」

指導した子供たちの中でも特に思い出深い、琴光喜関の少年時代について話をしていた。

「当時、六名体育館の東側に土俵がありましてね。そこで行われた大会に小学一年生で出場し、一回戦で負けてしまったんですよ。とても悔しかったんだと思いますね。すぐにここへ相撲を学びにきました。とにかく稽古が好きで、熱心でした。小学三年生のとき、市小中学校選手権大会で優勝。体は細かったが、運動神経がよく、他の子と比べて体のばねが違っていましたね。この子は大成すると思えました。」

相撲のテレビ観戦からも現在の琴



光喜関の調子が手に取るように分かるそうである。

「相撲教室に通う子は、昔も今も変わりません。目的をちゃんと持って取り組めるかは、すべて本人しだいですが。素質を持っていても努力しなければ光りません。ここに来る子は、本当に相撲が好きなき子が多いです。」

現在、この教室には、幼児から中学生まで、二十八名の子が通っている。市内だけでなく、豊田市や蒲郡市、額田町からも来ており、女の子も四名指導を受けているという。

「どんな子でも負けると悔しい思いをします。ただ負けて悔しいのか、自分に対してふがいなのか。そして自分の中で悔しさを克服していく。そんな体験を積み重ねて、心を強くしていくことが相撲の魅力です。やはり、心技体を大切にし、子供たちが成長していつてくれることがうれしいですね。」

「相撲のときは厳しいけど、土俵以外ではすごく優しい」「岡田先生のように、将来は相撲の指導者になりたい」など教室の子供たちに慕われている岡田さん。岡田さんの子供たちを見つめる目は実に優しい。

氏名 おかだ さとる

生年月日 昭和十四年三月二十五日

住所 大平町土井東六



楽しい授業・わかりやすい授業

—手だての工夫—

特殊教育指導員

澤田 祥明

「紙芝居の始まりだよ。」

教師が、子供たちに呼びかけた。すると二人の男の子が、にこにこしながら教師の前に座った。教師の手作りの紙芝居の表紙には、『二匹のこぶた』と、題名が書かれている。教師が表紙をさっと抜くと、仲良く腕を組んで歩いている二匹のこぶたの絵が現れた。そのこぶたの顔は、二人の男の子の顔写真になっていた。子供たちは、互いに顔を見合わせた。自分たちの顔写真を指差したりしながら、うれしそうに紙芝居を見ていた。次の絵は、一匹のこぶたが、お母さんぶたから家を作るように言われている様子であった。お母さんぶたの顔は、教師の顔写真である。この紙芝居は、子供たちと教師が登場人物になり、物語が展開されている。教師が、また次の絵を見せた。

伝え合う力を高める

竜海中 尾崎 和美



「この写真を拡大してください。」
A男がアムネステイの活動について紹介された書物に付箋をつけて持ってきた。前回発表に使った写真よりも、自分が伝えたい思いをより多く含んだ写真を選んできた。学習したことを自分のものにしようとしている。私はとてもうれしくなった。「マドゥーの地で」の授業では、自分で調べてまとめた原稿や準備した資料を使って、「国家や民族の壁を越えて活動している人」を紹介し合う学習を行った。お互いの発表を聞き合い、いちばん言いたいことや資料で伝えたことを確認して

いくため三人組という手だてをとった。友達との交流を通して、効果的な伝え方を学んでほしいと願った授業である。

A男は、伝えたい意欲は高いのだが、上手な伝え方がまだよく分からないでいる段階だ。原稿の書き方や資料選択のうまい子と組み合わせた三人組で学ぶことで、自分の発表を見直し、伝え合う力を向上させてくれることを期待した。

三人組での活動が始まった。



「世界には、良心の囚人、ストリートチルドレンなどがたくさんいます。その人たちのために……。」

自信なさそうに、ところどころつまりながら発表している。資料で伝えなかった思いも分かってもらえなかったようである。聞く側に回った時も、友達はどうな思いでその資料を選んだのかを推察し、聞き返すことができなかった。A男はとても悔しそうだっただ。

効果的な伝え方として、この授業

では、生徒たちの意見をまとめて、次のように一般化した。

- ・調べた人の活動や思いが伝わってくるエピソードを具体的に書く。
- ・単に顔写真や地図ではなく、一番言いたいことを表現している資料を選択する。
- ・一番言いたいことは、間をとり、顔を上げ、大きな声で聞き手に伝える。

A男の授業感想には、「資料を直したい。もう少し時間がほしい」とあった。三人組の発表の中でA男は伝えたい思いを表している資料を選択することの必要性を学んだようだ。

私は、発表を手直しする時間を設けることにした。A男は家での写真が一番思いを伝えるのか考えてきたようで、すぐに資料の変更を告げに来た。前回の資料よりも思いに迫ることができたことを賞賛し、新しく拡大した写真を渡すと、早速発表の練習を始めた。

クラス全体の前でA男は、まだ少しつかつかってはいたものの、新しい資料を使い、自信あふれた表情で発表していた。A男はこの学習を通して、上手に伝える方法の一つ、資料の選び方を学びとっていった。

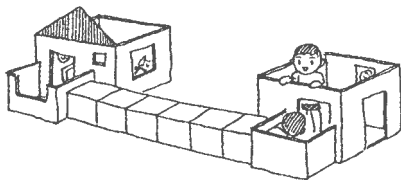
生徒たちはいつも前向きで、自分を高めようとがんばってくる。それに応えるのが教師の務めなのだ。彼らを伸ばす力をつけていきたい。

そこには、一人一人の子の「作りたの家」が描かれていた。その後、二匹のこぶたが力を合わせ、完成したそれぞれの家をトンネルでつないでいる絵が現れた。この紙芝居の内容は、今までの授業の課題や、本時の授業の課題「二つの家をトンネルでつなごう」になっていたのである。

「トンネルを作ろう」と、紙芝居を終えた教師が言うと、子供たちは、紙芝居に登場していたこぶたたちのように、役割を交代しながら協力してトンネルを作っていた。

この子供たちの放課の様子からは、教師の話をしっと聞いたり、一つの作業を継続して行ったりすることは、とても苦手であることが予想された。おそらく教師も、「どうすれば目の前の子供たちが課題を理解し、自ら活動に取り組むことができるのか」頭を痛めたはずである。教師が悩み、子供に寄り添って考え抜いた結果、

この『紙芝居』という、楽しく、しかも、わかりやすい手立てが生まれたのであろう。





▲ 起震車「マグマ号」での地震体験（岩津小）

また、中学校でも、生徒の引き渡し訓練の実施を進めている。竜海中学校では、三年生の技術・家庭科で、地震に安全な住居についての研究授業が行われ、生徒の防災意識を高めている。

東海地震に対する関心を高め、備えることが求められている。防災教育を進め、児童・生徒の生命を守る取組を確かなものにした。

岡崎市は、今年四月に東海地震の地震防災対策強化地域に指定された。震度も六弱以上と予想され、大きな被害が想定されるようになった。

これまでも教育現場では、校舎の耐震化等の整備を進めたり、生徒・児童の避難訓練を行ったりしてきた。しかし、指定を受けたことで、より具体的な場面を想定した防災教育が求められるようになった。

小学校では、梅園小学校が、「梅園小の防災教育」としてきめ細かな防災指導計画を立て、実践している。教室には、児童用の防災頭巾ずきえを備えるようになった。避難訓練も、建具等が倒れた状況を作り、発災時に近い状態で行っている。また、「梅園小防災カード」を作成したり、児童の引き渡し訓練を行ったりすることで、家庭との連携も強化している。



▲ 児童の引き渡し訓練（連尺小）



▲ 第一次避難訓練で運動場に伏せる児童（梅園小）

いざという時に備えて



▲ 危険箇所・安全性の高い所等が書き込まれた通学路マップ（梅園小）（番号は班集合場所）



▲ 耐震化された校舎（甲山中）



▲ 毎年9月に行われる市の防災訓練



▲ 生徒の引き渡し訓練（新香山中）



▲ 起震装置を利用して家具の揺れを実験（竜海中）



● 教育最新情報

○ 中学校区児童生徒健全育成協議会情報交換会開催

七月二十三日（水）午後二時から教育文化館において、情報交換会を初めて開催した。会には、市内十八中学校区から児童生徒健全育成協議会の地域代表者と校長、教育委員会、警察、少年愛護センター、保護司会代表が集まった。

教育長は、冒頭のあいさつの中で、六月の沖縄県北谷において起きた中学校二年生男子三人が、同級生に暴行を加えて殺害した事件、長崎市で中学校一年生が幼児を誘拐し殺害した事件を取り上げ、地域との連携の重要性を訴え、特に、情報連携のみでなく行動連携できる組織への再構築を図るように指導した。



また、専門機関の代表からは次のような話があった。

① 岡崎警察署生活安全課 課長代理 増岡 庶氏

暴走族等の追放促進に関する条例が四月一日より施行された。暴走族取締りの強化をしている。現状はおとなしくしているだけで暴走族が減っているわけではないので警戒をしている。七月からは、「わが町の安全チェック」として小学校区の防犯連絡所班長と協力し、夜間巡回を行い安全チェックをしている。また、九月十三日より携帯電話の出会い系サイトの取締りを強化する法律が施行される。

② 岡崎少年愛護センター 指導員 畔柳 吉朗氏

街頭補導では、怠学、はいかい、喫煙、路上での危険行為を含め、多くの小中学生に

声をかけてきた。現状では、小中学生の万引きが非常に多いので、学校でも指導をしっかりと行ってほしい。また、変質者の被害が多くあり、地域での十分な警戒が必要である。

③ 岡崎保護区保護司会 会長 小林 邦夫氏

少年非行の深刻化に伴い、保護司が学校との連携を強化し、問題行動のあった生徒の更生に力を尽くすようになった。更生させるには、愛情、理解、信頼の三つの力が必要である。また、保護司の姿勢として、思いやりの心で常に声をかけること、常に聴く姿勢で、そして、温かく見守ることを大切にしている。



▲ 健全育成協議会情報交換会

● 県外研修報告

六ツ美南部小 加藤 嘉一

学習指導要領実施二年目となった。そこで、新しい教育課題を克服するための授業実践への取組について研修を深めたいと考え、筑波大学附属小学校の研究会へ参加した。

一 研究構想から学ぶ

附属小の研究テーマは「子供の豊かさに培う共生・共創の学び」である。そして、共生・共創の学びを「いろいろな資質や能力をもった子供たちが、自他の違いを理解し、共通点を見出し、違いを超えて共有できるものをつくっていく」とする試み」と定義していた。現在、少人数指導の導入により、個々の学力の伸

を参観した。「多角形」についての概念を明確にすることを主題として展開されていた。

① 導入の工夫

導入では、五人が二人ずつじゃんけんの勝負をしながら、相手のカードを取っていくための全試合数を考えるところ、相手カードを取っていく場面設定であった。また、追究場面では、式や図を使った解決方法を関連づけさせ、多角形の対角線の数に発展させていた。

② 深め合う場面での工夫

解決方法を発表する子供には、板書のみをさせ、違う考えを持っていく子供を意図的に指名にし、説明させたり、問い返したりしていた。

③ キーワードを板書

考えのキーワードになることばを吹き出しで残したり、式の近くに（ ）で単位を付け加えたりすることで子供の考えを分かりやすくとらえることができるようにしていた。

二 授業から学ぶ

五年算数「多角形」の授業

が必要であると主張していた。

筑波大学附属小学校の研究は、「共生・共創」といった学校教育の進むべき方向の一提案として、参考になった。

●表 彰

◆特殊教育振興会全国表彰

・六ツ美西部小学校長 渡辺 勝英

◆ペプシカップ第二十三回全日本

・レーボール小学生大会愛知県大会

・男子優勝 矢作南小学校

・男子二位 竜 美 丘 B

・女子優勝 六南小クラブ

・女子二位 奥殿小学校

◆第二十五回愛知県中学生相撲大会

・団体戦 優勝 美川中学校

・個人戦 二位 加藤瞳(美川中)

◆第二十回NHK中学校放送コン

テスト県大会テレビ番組部門

・優秀賞 東海 中学校

・暴走族のいないまちづくりに関する標語

・優秀賞 市川妃かり(城北中)

◆第十回コカ・コーラ環境教育賞

秦梨小学校

◆わんぱく相撲愛知県大会

・優勝 四年 松村 隆範(矢作西小)

五年 鈴木 敦祐(小豆坂小)

六年 吉田 圭佑(細川小)

◆平成十五年度NHK学校音楽

コンクール三河地区大会

・金賞 矢作南小、南中

◆第三十三回愛知県野生生物

保護実績発表大会

・県知事賞

美合小「輝け生田堂」

生平小「ふるさとに学びふるさとを守る愛鳥活動」

◆中部日本吹奏楽コンクール県大会

・中学校小編成 県代表 新香山中

◆第二十三回全国中学アーチェリー大会

・30M・18M優勝 坂野太一(東海中)

◆全国中学生力ヌー大会

・K-4優勝 鷹、坂田、高山、加藤(新香山中)

●岡崎市中学生国際都市(タウランガ市)交流事業

岡崎市中学生海外交流事業

のひとつであるニュージニア

ンドのタウランガ市との交流

は、今年度第二回目を迎える。

現地では英語研修、ホームステ

イ、小中学校訪問等を中心とし

た活動を行い、英会話力を

高めながら、現地の人々との

交流を深める予定である。そ

の結団式が七月十四日に行わ

れた。

訪問 10/6(月)~10/13(月)

〈派遣団員〉

甲山 永原 集・城北 鈴木 彩加

福岡 岩瀬美弥子・東海 小原 有未

河合 樋田 麻里・常磐 山田佐和子

岩津 寄田 彩日・矢作 鈴木 慶輝

六ツ美 新見あすか・秦北 黒柳 彩花

磐山 坂田 知可・竜南 寺山 亮太

北 染谷 佳代・彦養 武田 太樹

〈団 長〉 甲山中 梶尾 長夫

〈副団長〉 梅園小 青山 永子

●第56回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の記録

種 目	性	優 勝	2 位	3 位
陸 上 競 技	男子	六ッ美	矢作北	東 海
	女子	六ッ美	甲 山	南
バスケットボール	男子	甲 山	城 北	竜 海
	女子	甲 山	東 海	東 海
バレーボール	男子	矢作北	六ッ美	甲 山
	女子	矢作北	六ッ美	東 海
ソフトテニス	男子	竜 海	矢作北	岩 津
	女子	城 北	額 田	矢作北
卓 球	男子	額 田	幸田北	六ッ美
	女子	額 田	幸 田	六ッ美
体 操	男子	南	矢作北	東 海
	女子	矢作北	東 海	南
新 体 操	男子	幸 田	六ッ美	南
	女子	額 田	南	矢作北
剣 道	男子	幸 田	六ッ美	南
	女子	額 田	南	矢作北
ハンドボール	男子	葵	六ッ美	竜 南
	女子	六ッ美	竜 南	南
軟 式 野 球	男子	東 海	額 田	岩 津
	女子	竜 海	南	城 北
ソフトボー	男子	甲 山	矢 作	矢作北
	女子	甲 山	矢作北	矢 作
柔 道	男子	甲 山	南	六ッ美
	女子	甲 山	南	北 福
サ ッ カ	男子	南	竜 南	六ッ美
	女子	竜 南	北 福	北 福
水 泳	男子	甲 山	城 北	岩 津
	女子	甲 山	城 北	竜 海
弓 道	男子	額田A	額田C	
	女子	額田B	幸田A	



▲平成15年度タウランガ市親善訪問使節団

●平成15年度岡崎市小学校体育大会の記録

種 目	性	優 勝	2 位	3 位
ソフトボール	男子	男 川	根 石	上 北
	女子	矢作東	広 幡	矢作南
バレーボール	男子	矢作南	竜美丘	藤 川
	女子	六ッ美南部	上 地	小豆坂
バスケットボール	男子	六ッ美北部	竜美丘	梅 園
	女子	美 合	竜美丘	竜美丘
サッカー	男子	上 地	竜美丘	大樹寺
	女子	上 地	竜美丘	六ッ美西部
水泳競技	北ブロック	男子	矢作北	広 幡
		女子	矢作南	矢作東
	南ブロック	男子	三 島	上 地
		女子	三 島	山 中

●第55回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位
男 子	矢作北	竜 海	矢 作	東 海	六ッ美北	南
女 子	甲 山	矢作北	竜 海	南	矢 作	六ッ美
男女総合	矢作北	竜 海	矢 作	甲 山	南	東 海



▲小学校体育大会・水泳競技

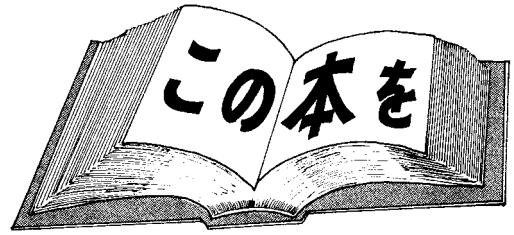
・カ
ツ
ト
六ッ美北部小 米村 進

敬老会 (昭和7年)

写真提供：矢作南小学校

戦前は、年長者を敬うことが強く求められる教育がなされていた。どの学校でも敬老会が開かれ、学区のお年寄りを学校に招いてお祝いをしていた。足の不自由なお年寄りには子供たちが、リヤカーや乳母車で学校までお連れしたという。

現在は、学区の社会教育委員会が中心となって敬老会を開催している。敬老の日には手紙を届けたり、学校行事に合わせお年寄りをお招きしたりして、お年寄りとおふれ合う活動が、各学校では工夫されている。生活科などでお年寄りから直接教えていただくことも多い。今、お年寄りを大切にする心の教育が求められているといえよう。



*美しい日本語のすすめ

- 美しい日本語について語る会 編集
財務省印刷局 ¥800
- *へたな人生論より徒然草 荻野 文子
河出書房新社 ¥1500
- *「陰山学級」学力向上物語 陰山 英男
PHP研究所 ¥1300
- *「教育の世紀」へ 池田 大作
第三文明社 ¥1000

*ことばの花束 金子みすゞのこころ

- 矢崎 節夫・里中満智子・玄侑 宗久
荒 了寛・片岡鶴太郎・酒井 大岳
佼成出版社 ¥1600

「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」この一節には、全てを肯定する広い心がある。みすゞの生涯は波乱に富んだものであったが、社会を批判、否定する心は微塵も感じられない。

生を受け、26歳の若さでこの世を去ったことが惜しい。もうしばらくでも生きていたら…。今年が生誕100年。6名の執筆者が、純な「みすゞ」の世界を語る。

幼子の命を奪った犯人が中学一年生という痛ましい事件があった今年の夏。少年犯罪の低年齢化が危惧されている。幼少年期の体験が、生き方に大きく影響を与えるという。大人たちが子供たちにきちんと向き合い、自然や周りの人々との体験を通して命の尊さを教えていきたい。

シ オ ス ア

震度六弱の地震が予想されている東海地震。岡崎市地震防災強化計画には、「児童・生徒などの安全対策として判定会招集段階からの必要な措置を定めておく」とある。地震が起きたときの訓練だけでなく、事前の備えをこれまで以上に、具体的に進めていく必要がある。

畦道あぜに群れ咲く彼岸花。緑を残す背景に赤い色が怪しく映る。幼いころ、母に「家に入ると火事が起きる」と教えられ、少し不気味に感じた花だった。しかし、その花は、まるで花火のようで美しい。暑さ寒さも彼岸まで。もうすぐ心地よい秋風の吹く季節となる。

スタートから三十年。シルバースタートの設置から今日まで、高齢者に優しい設備は増えてきた。しかし、本当に高齢者に住みよい町となっているだろうか。町の設備（ハード）の充実が進む中で、人の心（ソフト）は追いついていないだろうか。敬老の日を前にもう一度見つめたい。